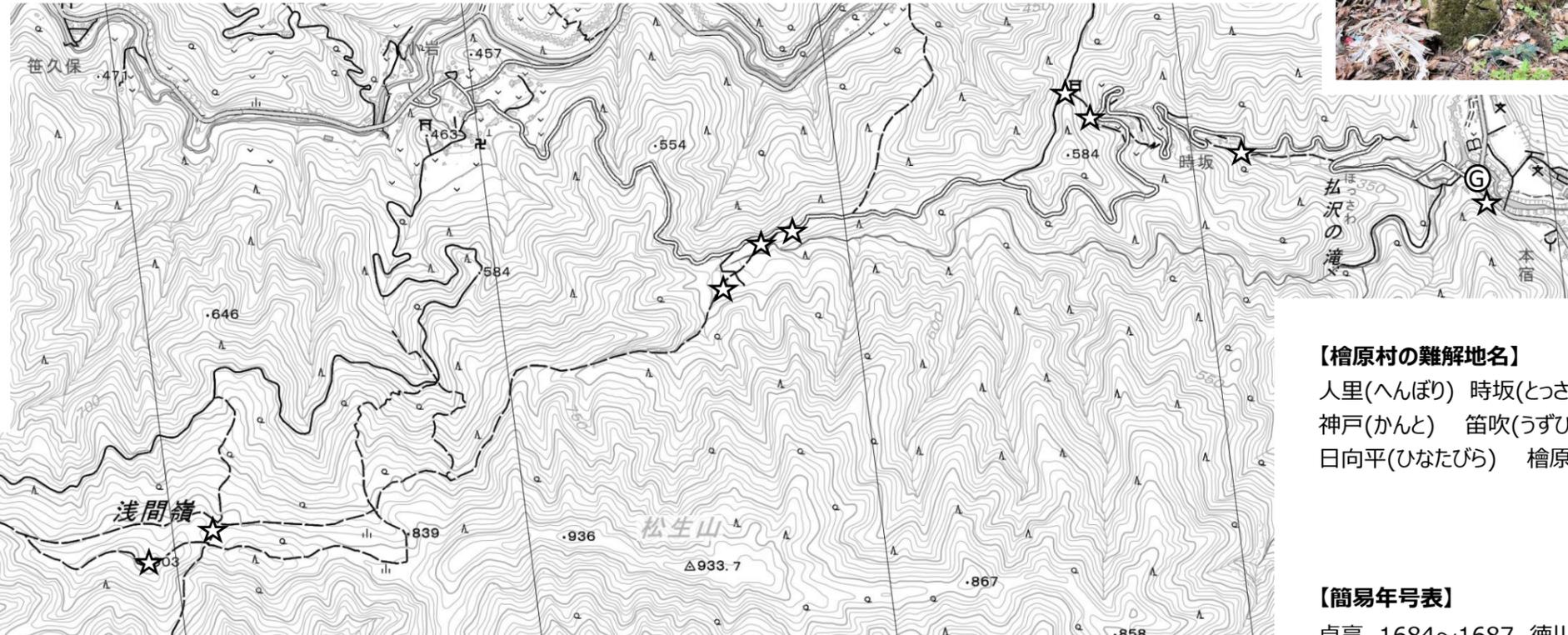


『浅間嶺と峠の歴史』

【浅間嶺の由来】

檜原城主が祀った大日如来や、それ以前に造られた石碑で囲まれた大変立派な為定王子(浅間様)の陵(りょうぼ)があったのが名前の由来とされている。ほかにも富士(浅間)山が見える尾根であることから浅間嶺という説もある。また、嶺とは、山の高くそびえる頂、その付近のことを言う。



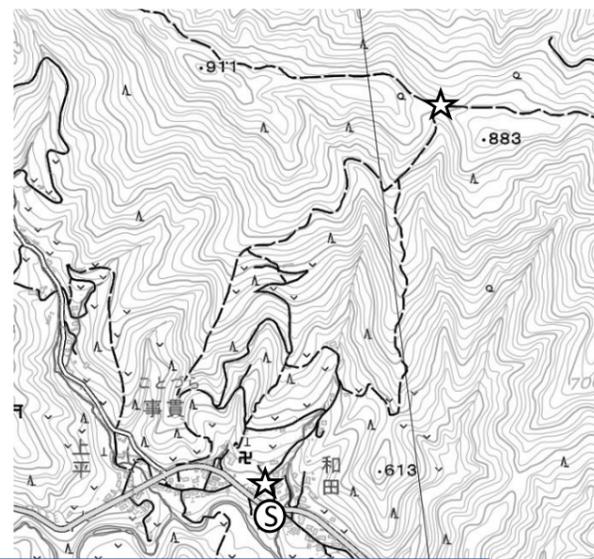
おくたま登山学校

2021年11月13日

今日歩く浅間尾根は、眺めの良い尾根歩きができる人気の登山コースです。昔は甲州古道(中甲州路)の一部で武蔵と甲斐を結ぶ生活道路でした。人の往来だけでなく、木炭や米や塩など牛馬が運んだ生活の道でした。

戦国時代には、武田軍が北条攻めの際に利用したとされる話も残っています。

そんな道の随所には当時の痕跡が今でも残っています。それら痕跡を辿りながら歩くことで、今までは違う景色や別の楽しさが感じられる山旅ができます。



【檜原村の難解地名】

人里(へんぼり) 時坂(とっさか) 払沢(ほっさわ)
神戸(かんと) 笛吹(うずひき) 事貫(ことずら)
日向平(ひなたびら) 檜原(ひ↓の↑は↑ら↑)

【簡易年号表】

貞享 1684~1687 徳川吉宗誕生
享保 1716~1735 目安箱、田沼意次
文政 1818~1828 シーボルト来日
嘉永 1848~1853 ペリー来航
安政 1854~1859 桜田門外の変

【キーワード】

馬頭観音 人間のために働いた馬や牛の無病息災を祈ったり、供養するための石仏です。今では考えられませんが、馬や牛が生活の一部だったことがわかります。

道祖神 旅の安全や道の安全を守る神様であり、外から集落や村内に災いも仕込まないよう願いが込められています。

庚申塔 旧暦では60日に1度、庚申(かのえさる)の日の夜、眠ってしまうと人の体内にすんでいる三し(さんし)という虫が天に昇り、天帝にその人の日ごろの行いを報告するという道教の教えがある。罪状によっては寿命が縮まると言われていたため、皆で徹夜をする民間信仰があった。当時、3年18回続けると記念に建立したのが庚申塔です。

二十三夜塔 庚申講と同じく民間信仰のひとつとして、人々が集まって月を信仰の対象として「講中」といわれる仲間が集まり飲食をし、お経などを唱えて月を拝み、悪霊を追い払うという月待行事を行い、その記念や供養のあかしとして建てられたもので月待塔(つきまちとう)ともいいます。



【山行計画】

- 8:51 笛吹バス停 下車
- 9:10 人里(説明・準備運動)
- 9:30 人里を出発
- 11:20 浅間嶺 到着
- 11:50 浅間嶺 出発
- 15:00 払沢の滝入口(解散)

帰りのバス 15:03、16:18、17:04